

明日の見える政治がいいね!!

Politics for Tomorrow-SHIGEKI TOKUNAGA TIMES



徳永しげきタイムス

愛媛県議会議員 徳永しげき活動報告



育ててくれた今治に感謝を込めて

「人の幸せに貢献する」政治を実現するために、若さをエネルギーに変えて熱い心で頑張ります。

人のために一生懸命汗を流している政治家の父の姿を見てきて、学生時代から政治家の道を志しましたが社会での勉強が先と恩師に諭され、額に汗して働くことの大切さを身にしみて経験しました。今治に戻ってからは中小企業の立場から1円の利益を上げるために必死で汗をかく民間の厳しさを学びました。私が学んだ企業経営感覚を行政に活かしていきたいと考えるようになりました。民間の汗の上にあぐらをかきような行政では困ります。企業経営感覚で政治をします。

「私がお役に立てる」と確認し、新しい可能性に向かってチャレンジしていきます。

県議会報告・一般質問

平成二十年第 308 回県議会定例議会

「一番レフト 徳永 背番号19」

私がこうアナウンスされたのは、8月に福島県会津の地で行われた全国都道府県議会軟式野球大会でありました。次元は違えども、「野球王国えひめに優勝を」との思いを一にし、全員で戦った試合は結果もさることながら、その内容は大変素晴らしいものでありました。(結果は26年ぶりの全国優勝!来年は愛媛県での開催です!ちなみに参加費用は全額自費ですので・・・)

今度は、私どもの願いである「県民の幸せ」に向って、舞台を議場に移し、活発な論戦を繰り広げなければなりません。その切り込み隊長として、強豪加戸県政に論戦を挑みたいと存じます。



■ 全国都道府県議会議員親善野球大会



■ 平成二十年第 308 回県議会定例議会

— 地方分権は激流となった — 究極の地方分権道州制について

NHK大河ドラマ篤姫では、まさに幕末から明治維新への政策転換の大きなうねりが放映されています。その政策転換の一つである廃藩置県から130年以上が経った平成の御世で、再び、この国のかたちを変えようとする、道州制導入による廃県置州の論議が熱気を帯び、国では、既に10年後の2018年を目途とした地域主権型道州制の導入への中間報告がなされています。新しい国のかたちをつくる大改革が先に断行された三位一体改革や市町村合併の時のように中央集権的手法で行われなかったためにも、地方においてもすべきことを着実にやり、道州制に移行された際の中央政府と対等・協力の関係に立つ地方政府の受け皿を構築しなければなりません。

— 加戸知事答弁 —

国と地方の長期債務が778兆円、長短債務を合算すれば1千兆円を超える膨大な借金を抱える中、国民に信頼を得るには、後世に負担を先送りしない、国と地方の財政を破綻させないという観点からも、無駄を排除し、簡素で効率的な行政システムを確立すると共に、地方が自立的、主体的に地域経営を行うことができる体制の構築こそが地方政治を預かる者としての最大の責務であると認識しております。現在の中央集権型システムでは、一部の大都市のみに人・物・金が集中し、地方には閉塞感が漂っており、こうした状況を打開するためには、地方自らが権限と財源を持ち、个性的で特色ある地域づくりが可能となる地域重視の道州制の導入こそが抜本的な解決策であり、究極の地域活性化策と考えております。